

JOCの進めるオリンピック・ムーブメントの推進 及び普及啓発活動について

平成27年5月13日



公益財団法人日本オリンピック委員会

JOCの事業

オリンピック

オリンピック・ムーブメント

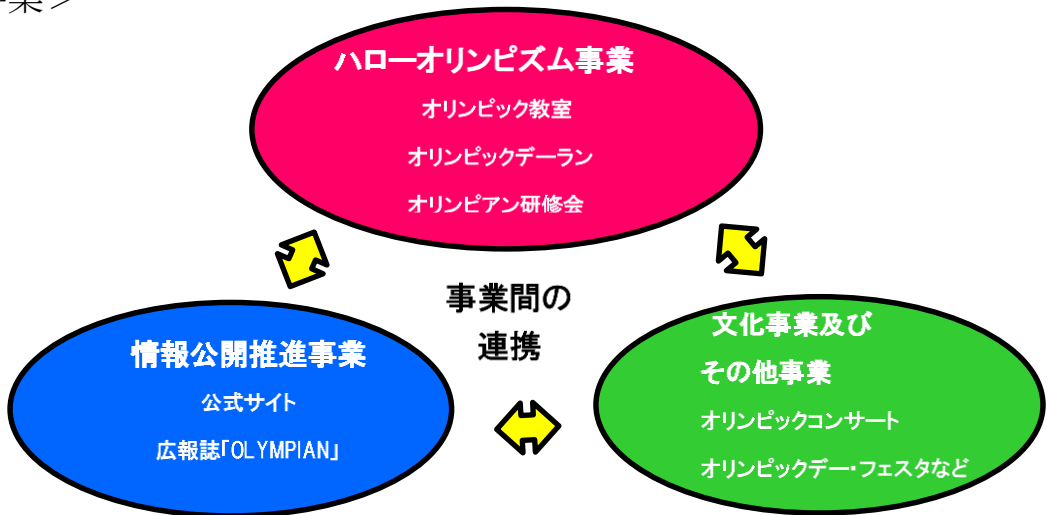
オリンピック・
ムーブメントの
普及・啓発活動

選手強化事業

国際総合競技
大会への選手
派遣事業

オリンピック・ムーブメント基本3事業

<基本3事業>



1. 「ハローオリピズム」事業

- 【オリンピック教室】
- 【オリンピックデーラン】
- 【オリンピックアン研修会】

2. 情報公開推進事業

- 【公式サイト】
- 【広報誌「OLYMPIAN」】 別添資料（冊子）を参照ください。

3. 文化事業及びその他事業

【オリンピックコンサート】

オリンピック競技大会に競技者として参加できるのは、ごく限られたトップアスリートだけかもしれないが、音楽や芸術をスポーツと融合することにより、日頃スポーツに関心を持たない方々へのオリンピック・ムーブメントの普及・啓発をすすめる事業。



【オリンピックデー・フェスタ】

東日本大震災復帰支援事業の一環として、「スポーツから生まれる笑顔がある。」をスローガンに、被災地を中心とした複数競技のオリンピックアン等アスリートと一緒にスポーツを楽しむ運動会形式の事業。



ハローオリピズム事業

「ハローオリピズム事業」とは、オリンピックが自ら求められる役割を理解し、オリンピック・ムーブメント事業の先頭に立ち、参加者（特に青少年を中心とした）とのコミュニケーションを通して、「オリピズム」の理解をより深めてもらうとともに、オリンピックの意義を継続的に伝えていく草の根的事業。

文武両道を尊重する我々は、実は特別に意識することなく、「オリピズム」に通じるフェアプレー精神、相手に対する敬愛の念や感謝の気持ちを日頃から大切にしている。この事業を通して、参加する人々の日常の中にあるオリピズムにふれる（出会い、気づき、感じる）機会につながることを目指す。

【事業の基本方針】 オリピズムを「外から一方的に伝える」だけでなく「参加者自身の中にある、広い意味でのオリピズムに気づいてもらう事業を展開する。」

【活動コンセプト】 出会う・感じるオリピズム
 「日常の中に存在してるオリピズムのエッセンス」は、すでに人々の中にある。それに気づくことで、今まで意識していなかった、「オリピズム」に事業を通して「出会い」「感じ」てもらう。

POINT1

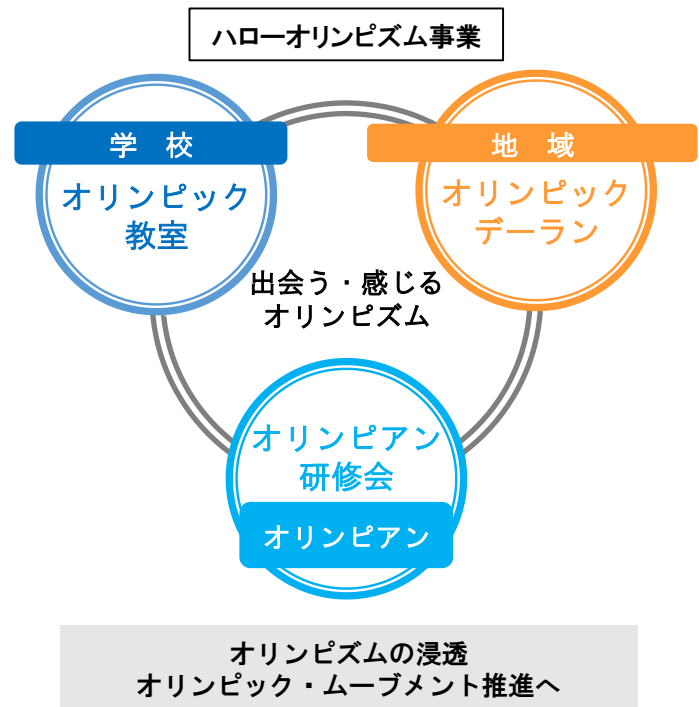
「オリンピック教室」「オリンピック・デーラン」「オリンピック研修会」の3事業の連携

POINT2

参加者のみならず、事業の運営に係る関係者など、より多くの人々とともに事業をつくりあげていく機運醸成

POINT3

一過性（ワンデーイベント）で終わることの無い事業とし、継続的かつ長期的拡大を視野にいれたグラスルーツ視点の事業



チャンネル	ハローオリピズム事業	実施内容
学校	オリンピック教室	学校教育機関と連携した、オリンピックが生徒の中にある「オリピズム」に気づかせる 中学生(2年生)を対象とした特別授業
地域	オリンピックデーラン	各開催地の自治体と連携した、家族や友達多くの参加者と共にオリンピックと走り、スポーツの楽しさやオリンピックの価値を共有する 一般向け(ファミリー向け)ジョギングイベント
オリンピック	オリンピック研修会	オリンピック（パラリンピアン）が自身の体験を振り返り、自らの「オリピズム」に出会い、その価値について改めて学ぶ オリンピック向け研修・交流会

JOCの進めるオリンピック教育

オリンピック研修会

オリンピズムやオリンピックの価値を自ら学ぶ機会



オリンピック教室

学校教育と連携したオリンピックによる中学生向けの授業

オリンピック教育の推進にはオリンピック競技大会を経験したオリンピックとの協働が不可欠である

中学校の授業で、オリンピックから直接学べることは、生徒の将来に良い影響を与える可能性を秘めている

オリンピックが、オリンピズムやオリンピックの価値を改めて学ぶことからの気づきが多い

事後アンケートからも、オリンピックを身近に感じた、見方が変わったとの意見が多数寄せられている

オリンピックが自身の経験を振り返ることで、自らに求められる役割を認識する機会となる

生徒がオリンピックを身近に感じた事により、東京2020大会において、見る、する、支えるなど、様々な形での参加意欲につながる

JOCオリンピック研修会： オリンピアンが学ぶ場

JOCアスリート専門部会が中心となり、オリンピック自身がオリンピズムやオリンピックの価値を改めて学ぶ研修会である。アスリート間のネットワーク構築を進め、JOCの諸事業を含めたオリンピック・ムーブメント推進により一層の貢献を果たすとともに、アスリート自身の今後の活動に役立てる。平成26年よりJOC諸事業間の連携及び日本全国に在住するオリンピックの参加機会の創出に向け、複数都市（福岡、東京）で開催。

平成27年度は3都市（仙台、東京、西日本地区）を予定。

研修会にはパラリンピアンも参加、オリンピック、パラリンピアンとの連携も深めている。

※平成26年度実施状況

第1回アクション福岡 オリンピアン16名、パラリンピアン4名

第2回味の素トレセン オリンピアン29名、パラリンピアン4名

※ 研修会のようす



講義「オリンピックをもっと知ろう」



講義「パラリンピックについて」



グループディスカッション①



グループディスカッション②



グループディスカッション発表

※グループディスカッションでは、オリンピック教室（座学）でのグループワークを疑似体験する。

オリンピック教室実施の背景

「オリンピック教室」の実施にあたり

平成21年(2009)4月に新学習指導要領が公示され(中学生全面実施:平成24年度、高校生:平成25年度入学生から)、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。

新学習指導要領では、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会(JOC)では、平成23年度(2011)から、新教育課程の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手(オリンピック)は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活のうえでも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値(バリュー)及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記載があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

オリンピック教室：

目的： オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう

対象： 中学校2年生

授業の実施方法： 1クラス単位 運動、座学の2時間を1セットとして実施

※「オリンピック教室」はチームティーチングを採用
T1=オリンピック、T2の2名で進行します

運動の時間 (50分)

+

座学の時間 (50分)



※ 通常の授業時間をベースに実施

<事前準備等>

オリンピック

T2

JOC、運営事務局

オリンピック先生決定後、授業の内容進行について入念に打合せ。
学校への事前アンケート調査の情報等についても共有。

過去4年間の実績

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
2校	13校	16校	18校	49校
7クラス	49クラス	39クラス	37クラス	132クラス
262名	1,710名	1,324名	1,233名	4,529名

※平成23年度はトライアルとして実施

※現在JOCパートナー都市を中心に10都道県で実施中

※平成27年度は30校90クラスを想定

JOCオリンピック教室（授業の流れ／運動の時間・1時限目）



あいさつ → 学習内容の確認



準備運動①



準備運動②



主運動の説明



主運動



さらに良い結果を求めた作戦会議



オリンピック先生によるデモンストレーション
（実施が可能な場合のみ）



授業のまとめ → あいさつ

JOCオリンピック教室（授業の流れ／座学の時間・2時限目）



あいさつ → 学習内容の確認



オリンピックの自己紹介



オリンピック自身の経験に基づくオリンピックの価値等に関する話 → 生徒への発問



グループワーク



グループワークの結果を発表



授業のまとめ → あいさつ



記念撮影

授業終了後、生徒及び学校関係者を対象にアンケート調査を実施。

授業を終えて

生徒の声

“スポーツでも生活でも、皆で1つの目標に向かって頑張ることは、大事なんだということがわかりました。また選手と一緒に活動することでオリンピックが身近に感じられました。”

“オリンピックだけに限らず、普段の生活でもフレンドシップやリスペクトなどは自分達を高める上で大切なのだとわかりました。”



“何かの偉業を成し遂げるのにも、周りの支えがあるからこそできるのだということを改めて知ることができました。”



“自分を誇りに思うこと、たとえ自分が試合に出ることができなくても、何ができるかを探ること、ライバルを持つこと、全力でやることなど、たくさんのことを学ぶことができました。”



“先生のオリンピックの話の中で友情の話が印象に残りました。友情は形にはないけど、とっても深いものだと思います。なんでも言い合える、お互いがお互いを必要とする、支え合う、これが本当の友情なんだと改めて感じました。”

“オリンピックの舞台に立つ人達は、ちゃんと自分の目標があり、くじけそうになっても最後まで諦めることのない強い心を持って人なのだと感じました。私もオリンピックの人たちのように強い心を持って人になりたいと思いました。”

“今日の授業で自分も何かしらの形で2020年のオリンピックに関わりたいと思いました。金メダルを生で見るとは、もう一生できないかも知れないので、とても感動しました。”



授業を終えて

先生の声

“オリンピック教室終了後から、生徒の運動に関する、関心、意欲の向上、心情面や運動への取り組み等、明らかにも変化を感じることが出来ました。”

“大山加奈先生（バレーボール）の授業では、生徒たちが協力し合って活動する場面がたくさんありました。運動があまり得意ではない生徒から「体を動かすのがとても楽しかった」、「体育の授業が楽しく感じた」との感想があり、私自身も嬉しく思いました。”



“伊藤華英先生（水泳/競泳）の授業を拝見し、オリンピックは必ずしも順風満帆な人生を送ってきたわけではなく挫折や苦悩を経験し努力を積み重ねてきたことが生徒たちに伝わる内容で大変よかったですと思います。”



“鶴岡剣太郎先生（スノーボード）の授業を拝見し、多くの支えを感じて高みに立った人の言葉は重みがあるなあと感じました。「ありがとう」の気持ちを沢山持つことの意味も伝わりました。本校生徒の良さと可能性を引き出すスタートになったと感じています。”

“日頃から多くの先生たちが、友達を大切にすること、まわりの人に感謝すること、最後まであきらめずに努力すること等、この授業で学んだことを繰り返し伝えていますが、本物のオリンピックから聞く言葉は、こうも伝わり方が違うのかと改めて思いました。座学の授業中、生徒の真剣なまなざしも印象に残りました。”

自治体関係者の声

授業中、通常の授業では見ることが出来ないような生徒の反応等があり、先生方の指導力向上という視点からも十分効果があるとの声の実施校からも届いています。

中学校2学年で実施し、3学年の体育理論につなげている点が、単なる一行事でなく授業として位置づけられているところが良いと思います。また、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」というオリンピックの価値が、運動、座学の授業に明確に示されており、生徒や先生方にはっきり届いていると思います。